

河阿神社

亀岡市蕨田野町柿花宮の奥8番地

当神社は約2000年前に九州方面から移住してきた南方系の採鉱冶金術を知った部族によって創始されたものである。それは、ご神体が蛇骨であることや後の人が「岩見重太郎のヒヒ退治伝説」に絡めた人身御供の伝説があることでもわかる。

天正5年に明智光秀が亀山城築城のため、各地の神社を取り壊し、築城の材料を集めた時に当神社も壊滅状態にされたが慶長元年に守護代前田玄以によって復古された。宝永6年に社殿の改築を行い、現在の社殿となる。



人身御供の伝説

その昔、まだ山内谷の家々が藁葺屋根ばかりであった頃、鎮守の森はうっそうと茂り、大きなヒヒが住み着き、娘のいる家に白羽の矢を立てた。ヒヒが神の化身と恐れる村人達は長年にわたり、屋根に刺さった白羽の矢は神のお告げとばかり、娘に白装束を着せ、泣く泣く長持に入れて社殿正面に奉納してきた。ある年のこと、一人の武将が娘の身代わりとなって長持に入り、深夜、大捕り物の末、ヒヒを退治した。その後は平和な山内谷となっげな。

この石は当時、生娘を入れた長持を置いた台石と伝えられている。

